

今号の主な内容

【特集】国際交流事業

第11回 ゆふいん～アジアふれあい交流子ども使節団
「日韓交流の旅」韓国・水原市訪問日記 …………… 1,2,3

ゆふいんtopic

築1周年☆お披露目感謝祭 ゆふいん児童クラブ …………… 4

ゆふいん財団掲示板 …………… 4

【発行日】2012年12月12日
【発行】公益財団法人人材育成ゆふいん財団
【発行人】溝口薫平
【編集責任者】霜野圭一
【編集】人材育成ゆふいん財団企画委員会

住所／湯布院町川上2863
TEL／85-4748 FAX／85-4759
E-mail：info@yufuin-zaidan.jp
H.P：http://www.yufuin-zaidan.jp

【特集】国際交流事業

使節団が元気に交流をしてきました!!
水原市との相互交流がスタートしました

第11回 ゆふいん～アジアふれあい交流子ども使節団

「日韓交流の旅」韓国・水原訪問日記 2012年8月1日(金)～3日(日)

第11回ふれあい交流使節団が8月1日から3日間の日程で韓国の水原市を訪問し、無事に帰国しました。今回の訪問では水原市青少年育成財団との交流を行いました。今年の2月に水原市からの交流団が初めて湯布院を訪れました。湯布院の子ども達と一緒に由布市内や大分県内の各所で視察や各種体験をして交流をしました。とても素晴らしいご縁、友好関係の第一歩を築くことができました。

そして今回の使節団はその逆。再び水原市の子ども達に会うために、今度は湯布院の子ども達が水原市を訪れました。お互いのまちを行き交う相互交流がスタートしました。その訪問日記を今回クローズアップして特集します。財団ホームページもぜひ、ご覧下さい。

カチッ! 検索 ゆふいん財団

さあ出発です!!

今回で11回目の使節団。今年の2月に湯布院を訪れ、ホームステイなどを行い、3泊4日で交流をした水原市青少年育成財団との相互交流が始まる最初の使節団です。水原市では、ホームステイをする予定だったので、一致団結したチームワークづくり、コミュニケーションを重視した韓国語の勉強会を行いました。

その出発式が8月3日(月)湯布院庁舎前の駐車場で行われました。出発式ではリーダーの湯布院中学校3年田島里彩から「今回は水原市の方々とたくさんの交流を行う予定です。湯布院・日本を代表して、がんばって行きます。たくさんのことを学び、そして湯布院の素晴らしさをしっかり伝えていきたいです。」と決意表明がありました。

出発式が終わるとすぐにバスへ乗り



込み福岡空港を目指して出発です。家族の方がたくさんお見送りに来て下さいました。少しの間、家族と別れますが元気に手を振って出発しました。

今回の旅のプランは初めての試みが多く、ほとんどの交流プラン・プログラムを水原市青少年育成財団のキムヘランさんに企画していただきました。水原市では、2月に湯布院を訪れた子どもたちやキムヘランさんとの再会が待っています。今回で日本・湯布院と韓国・水原を行き来したことになります。両都市の青少年たちが交流を通じて、お互いを理解して友情を深めよう

と、気合十分でした。

空港に到着して出国の手続きです。不安そうな表情も多かったのですが、「将来、絶対に必要になるので知っておいたほうが良い」という引率者のアドバイスを聞きながらしっかり勉強をしていきます。無事に航空券を手にして、ワクワクした表情をしていました。そして飛行機に搭乗。機体が一気に離陸した時、悲鳴のような声と「ウォー!!」という声も聞こえましたが、無事に出発しました。飛び立ってから間もなく機内食のサンドイッチを食べ、ご満悦。約1時間半のフライトを経て仁川空港に到着しました。



再会と歓迎!!

仁川空港に到着すると、外国に来た!という印象を肌で感じたのでしょうか。子どもたちの表情には緊張感を感じます。入国審査を受け、これまで勉強した韓国語で、会話を試みます。荷物を受け取るベルトコンベアが動いています。預けた順番で自分たちの荷物が流れてきません。「私の荷物があそこにある!!」。中にはすでに流れていった自分の荷物を追いかけていく子どもたちもいました。

荷物を受け取り、ゲートを出た先ではキムヘランさんが出迎えて下さいました。元気な声で「アニョハセヨ(こんにちは)」と話す子どもたち、「チャルプタカムニダ(よろしくお祈いします)」とキムヘランさんとの再会をみんなが喜んでいました。

韓国はとても暑い日が続いています。猛暑日が続いているため、できるだけ子どもたちの体に負担にならないように、キムヘランさんにスケジュールを少し変更していただきました。



最初の訪問地は、韓国、水原市の歴史を象徴する世界文化遺産の水原華城です。華城行宮を中心に市内を城壁が囲んでいます。華城行宮へ向かう道中バスの車窓でも、そうした城壁を見ることができます。華城行宮に到着し、現地ガイドさんに敷地内について詳しく教えていただきました。韓国の建築様式や装飾に驚いている子どもたちがいました。韓服を着た門番人がいます。「あっ韓国ドラマで見たことがある!」といって、横に並んで記念撮影です。水原華城は韓国を最初に見て、聞いて、感じた訪問地でした。

次に向かったのが水原青少年文化センターです。水原市青少年育成財団が活動する本部がセンターの中にある

す。湯布院でいえば、中央公民館といったところでしょうか?青少年文化センターでは、水原市青少年育成財団のイムカンチン理事長や関係者の方々がたくさんお出迎えを下さいました。

はじめに2月の湯布院訪問での感謝のお言葉や今回の訪韓の歓迎のお言葉をいただきました。そして、水原市青少年育成財団の紹介VTRを見せて頂きました。青少年の様々な活動の支援を行っており、その活動の楽しい様子が伺えます。

お互いの自己紹介をすることになり、子どもたちもこれまでの勉強会で練習した韓国語での自己紹介をしていきました。ゆふいん財団の使節団を代表して霜野団長が、今回の暖かい歓迎に対して、韓国語で挨拶し、水原市青少年育成財団からも大きな拍手をいただきました。

そして青少年文化センターの施設を見学させていただきました。最初に紹介していただいたのが、青少年文化センターが発信するインターネットテレビ局。子どもたちの活動として撮影、録画、編集を行うそうです。大人顔負けの施設が充実しており、隣の部屋にはたくさんのパソコンが並んでいます。

この日もたくさん子どもたちが活動をしており、VTR作成の締め切りに追われていました。次にご案内していただいたのが室内プール。夏休み、バカンス期間中ということもあり、たくさんの方で賑わっていました。プールが広く、観客席もあって施設がとても立派だという印象を受けました。

続いて、屋外へ。青少年文化センター内の夏のイベントが開催されています。子どもたちによるロックコンサートやテントを張ったブースで創作体験などを行っていました。このイベントは、主に夏のバカンス時期に市外へ



旅行に出かけられない子どもや家族を対象にして、開催されているイベントだというお話を聞き、その主旨にも感動しました。

それから、歓迎会が開催される会場に移動。会場に入ると大きな「歓迎」という横断幕がありました。次の日のホームステイ先の家族、青少年育成財団の関係者、子どもたちに出迎えていただきました。ホームステイ先の家族毎のテーブルに子どもたちが分かれて、初対面と初会食をしました。

そして自己紹介と、勉強会で練習してきた湯布院のまち紹介をしました。そのまち紹介をしたパネルと同じ写真を紙芝居にして、青少年育成財団にプレゼントしました。みんなで「ぜひ、湯布院に来て下さい!」というPRができたと思います。次に、青少年育成財団からの特技披露。ダンスの活動をするグループから、KARAの「STEP」を踊ってもらい、会場が驚きの声と手拍子でとても盛り上がりました。「カワイイ」と子どもたちは大興奮でした。

各テーブルでは、まだ恥ずかしさがあり、コミュニケーションがうまくとれないところも多かったです。お互いにきっかけを見つけているような印象でした。引率者も心配になり、各テーブルの会話をサポートします。

テーブルの輪に入っていなかった高校生に話しかけると、日本語を話すのも、聞くのも上手。「将来、何になりたいの?」という質問には、「牧師」「大学教授」という返答。大きな夢に向かって現在必死に勉強していることを話してくれました。使節団の子どもたちを紹介すると、あっという間に仲良く会話をしていました。

初日からとても手厚い歓迎を受けて、歓迎会も楽しく過ごしました。そして夜遅くまで、とてもハードな初日となりました。

交流／ホームステイ

2日目となりました。昨夜、子どもたちは夜更かしをしたのか？早くからぐっすり寝たのでしょうか？各部屋はとても静かでした。2日目の宿泊はホームステイとなるので、各自荷物をまとめる約束をしました。朝の集合時間に間に合うかどうか、引率者はとても心配。しかし、そうした心配をするまでもなく、全員しっかりとロビーに集合していました。そして、朝食バイキング！テーブルマナーを守って、しっかり食事をしていました。

ホテルを出発し、バスの行き先は韓国民俗村です。ここでは、昔の韓国の暮らしを見学します。また、たくさんのアトラクションや韓国の時代劇のロケ地を訪れます。水原の子ども達と一緒に施設の中をまわりました。韓国雑技団の演技や綱渡りなどたくさんのアトラクションを見学しました。

昼食はビビンパ。辛いものが得意な子とそうでない子、それぞれです。コチジャンを足して、それぞれ辛さを調整できますが、最初のビビンパでノックダウンの子どももいました。キムチ

も少しかじる程度。まだまだ、韓国の食事には慣れない様子が伺えました。チヂミなら大丈夫と言いながら、食文化にもチャレンジしていきます。

昼食後は、青少年育成財団の子どもからの提案で、民俗村内にある遊園地へ移動。ここからは、みんな一緒になってグループ行動です。

最初にあったのがお化け屋敷。水原の子どもたちはとても積極的ですが、湯布院の子どもたちはおびえています。確かに怖いお化け屋敷という雰囲気が出ています。積極的に入っていくグループからは「ギャーッ」という叫び声が聞こえてきて、後になればなるほど怖さが増して、ますます入っていきにくくなります。

お化け屋敷をクリアした子どもたちから順番に絶叫マシンに挑戦していきます。一緒に遊ぶ時は、言葉はいりません。みんな笑顔でたくさんの乗り物に乗っていました。子どもたちはお小遣いをにぎって、施設内のお店に入って買い物もしていきます。みんなお土産探しをしていました。韓国民俗村後にして、バスに乗車しケンセン青少年訓練館へ向かいます。



約1時間の移動で到着。保護者の方々がフルーツ入りのジュースやチヂミなどをつくって待って下さいました。

ここではみんなで韓国のお菓子づくりに挑戦です。団子餅を練って“ごまあん？”のようなものを入れていきます。作り方が慣れてくると皆がいろいろな形や装飾に挑戦し始めました。動物や魚、花や顔など、いろいろな創作に挑戦です。また、保護者の方々から、韓国の代表菓子のトッポギの作り方を教えてもらいました。

お菓子づくりが終了して、本日の宿泊はホームステイ。ホストファミリーの方々がお迎えにきました。使節団の子どもたちが各家庭に分かれていきます。引率はまるで娘達を送り出していくような気分。大丈夫かな？と心配になりますが、元気良く旅立っていきました。

韓国での最終日

いよいよ最終日の3日目です。みんな充実したホームステイを過ごして、元気に集合しました。ホームステイでは一緒に食事をし、ショッピングに出かけた子どもたちが多かったようです。

子ども達はコミュニケーションに苦労したそうです。日本語ではやはり気持ちに通じない部分もあり、何とか韓国語や英語の単語を組み合わせながら、がんばって会話をしていたそうです。

さて、いよいよホストファミリーとはここでお別れです。どの家庭も別れを悲しそうにしていました。お互いに連絡先を交わします。そして記念写真。みんなとても素敵な笑顔で写真を撮っていました。またお会いしましょう！

高速道路をバスに揺られて、1時間ぐらいでソウルに到着。訪問地は明洞(ミョンドン)日本地という、「新宿？」「原宿？」といったところでは



うか？子どもたちが目指すは、何といっても「K-POP」のショップです。お目当ての商品を目指して、お気に入りのグッズを購入です。雑貨など、家族や友達へのお土産を購入しました。

昼食はサムゲタン。食べ方を教わりながら、鶏肉をかき分けていきます。煮物ですが、中に漢方薬などが入っており、夏バテ防止の薬膳料理だそうです。鶏肉の中にはよくわからない具がたくさん入っていますが、子どもたちにとっては辛い食べ物よりも食が進むようでした。

昼食後、いよいよ帰りの仁川空港へ向かいます。空港に到着して、出国手

続き。みんなお土産が多くて、荷物をまとめるのがとても大変です。苦労しながらも、搭乗手続きを完了。あとは出発まで、みんなで免税店で買い物を楽しみました。

飛行機に乗り、無事に福岡空港に到着しました。帰りのバスでは各自ホームステイでの過ごし方や感想について語り合いました。湯布院に帰ると、あいにくの雨で解団式をバスの中で行いました。「水原ではホームステイなどとても充実した時間を過ごし、元気に帰国しました。とても良い経験をしました。」と副リーダーの川合夢結が帰国報告をしました。

来年2月は、今度は水原市から子ども達が湯布院に来ます。そのことを子ども達に話すと「私がホームステイを引き受けたい」「また会いたい」という言葉が聞こえてきました。カムサハムニダ！（ありがとう）水原！

ゆふいん 築1周年☆お披露目感謝祭「こんなに大きくなりました!!」

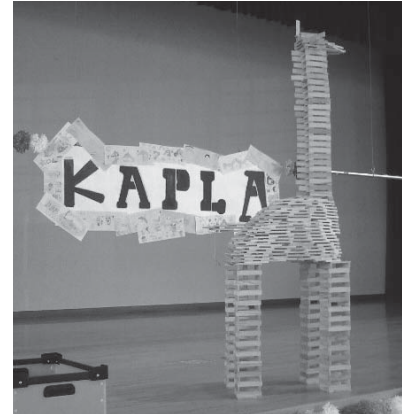
TOPIC

～ゆふいん児童クラブ～ 10月13日(土)

ゆふいん児童クラブの築1周年☆お披露目感謝祭にお伺いしました。由布院小学校の建て替えを機に、別棟の新しい児童クラブになって1年を記念した感謝祭。ゆふいん児童クラブは14年目を迎え、クラブで過ごしたこのある子どもの数はのべ334名。現在の在籍数は第1クラブ、第2クラブを合わせて76名になります。

感謝祭では「カプラRで遊ぼう!」というワークショップが開催されていました。素朴な木の造形ブロック「カプラ」は、大人の手のひらにのるほどの細長い白木の板

です。この同じサイズの板を積み上げることによって、どんな形でも作り出すことができ、子ども達の創造性が無限に広がります。会場には巨大なキリンがステージに登場。それを見本に、大きなタワーや橋、また巨大な“かまくら”のようなものが出来あがっていました。子ども達が思い思いの作品を自由につくって、とても楽しい時間を過ごしていました。他にも食バザーやリサイクルバザーも行われ、指導員や保護者の方々に支えられたゆふいん児童クラブを象徴するような、とても微笑ましい感謝祭でした。



INFORMATION

人材育成ゆふいん財団 掲示板

(1) 一般寄附金としてご寄付をいただきました。

・久保輝子様より (香典返しとして)

50,000円

温かいご厚意ありがとうございました。公益目的事業の推進、充実に有意義に活用させていただきます。

(2) 国際交流事業・第11回ふれあい交流使節団への寄附金

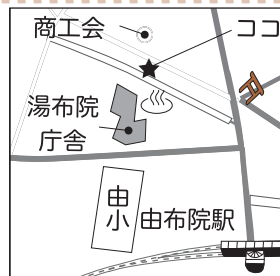
・お饞別として (6名より)

68,000円

温かいご厚意ありがとうございました。現地での交流費等に、有意義に活用させていただきました。

木工職人!! 起業家支援事業一くぬぎの学校

くぬぎの学校の展示ギャラリー「space ここの」が花の木通り商店街(足湯の前)にあります。ぜひ一度、お立ち寄りいただき、手仕事による木工作品をご覧ください。今後は間伐材や県産材広葉樹を活用したモノづくりに取り組みます。また、皆様に木工づくりを体験していただくワークショップも企画しています。詳しくは次号にお知らせしたいと思います。(水・木定休日/10~17時まで)



編集後記

あっという間に師走です。今年は本当にいろいろありました。激動の年、多忙な年だったな〜と振り返っています。昨年に韓国・水原市青少年育成財団とのご縁ができて、今年の2月に交流団が湯布院を訪れました。そして8月に、今度は湯布院の子ども達が水原市を訪れる機会ができました。こうした民間同士の国際交流は大変貴重な財産だと感じ、子ども達にとってはかけがえのない機会となったのでは、と思っています。

それから7月の豪雨災害。復旧作業に追われた月でもありました。我が家も一時避難を経験しました。あらためて自然とうまく付き合う暮らしや地域の絆、知恵の大切さを感じました。そうした大きな経験や教訓を糧に、来年からも明るい将来、未来へ向かってがんばっていきたいと思います。(事務局・大澤直彦)

みらいしんきんは人材育成ゆふいん財団の市民の実践活動への情報・ネットワーク事業を応援します

MIRAI 大分みらい信用金庫

URL <http://www.oitamirai.co.jp/>